７月２０日（日）主日礼拝レジュメ
「私たちがなすべきこと」　使途の働き４章１５～２２節

5 節「ペテロとヨハネが議会から退場するように命じられて、そして互いに協議した。」16 節「あの人たちをどうしよう」
議会は非常に難しい対応を迫られることとなった。なぜか。使徒たちが語ったことを受け入れようとせず、逆に否定しようとするから。イエスキリストを救い主として信じようとしない、その心のかたくなさが招いたこと。ただ使徒たちに反対することしかできなかった。

そこで彼らの出した結論は 17 節「しかし、これ以上民の間に広まらないように、今後だれにもこの名によって語ってはならない、とこ彼らを脅しておこう」ということになった。彼らの行動の動機は自己保身。私たちも自己保身になっていないか。私たちも聖書のことばを聞く時に聖霊の働きを通して、自分は間違っていたかもしれないということを示された時に、自分の罪や過ちを素直に認めて神の御前に悔い改めているだろうか。逆に人の前に自己保身から来る自己弁護に終始し、神の前に悔い改めないことはないだろうか。

17，18 節の指導者の警告や脅しにもかかわらず、使徒たちは 19，20 節で「神に聞き従うよりも、あなたがたに聞き従うほうが、神の御前に正しいかどうか、判断してください。私たちは、自分たちが見たことや聞いたことを話さないわけにはいきません。」と言った。人は神に従う時に、本当に強くありうる。神に従うとは、神の召しに生きること。20 節にありますように、自分たちの見聞きしたことを証しすることが自分たちの使徒としての召しであり、ここに生き続けることが神に従うことと彼らは考えていた。神様の召しに従って生きるときには、苦難もある。

指導者の姿は、21 節「それは、皆の者がこの出来事のゆえに神をあがめていた」のとは対照的な光景。人々とともに神のなさったみわざのゆえに神をあがめるべきでしたが、そうはできなかった。それは彼らの心のかたくなさのゆえ。

私たちの使命も、ただイエスキリストがどなたであるかを証しし宣べ伝えること。人を無理に信じさせることはできませんが決してあきらめることなく、最後までキリストを証しする務めは行わなければならない。また福音を喜んで受け入れてくれる人ばかりではない。時には指導者たちのように反対したり、迫害されることがあるかもしれない。それでも私たちは信仰により強められ、屈することなくキリストの証しの務めを全うしたい。